

みんなで育てよう ふるさとの「宝」

敦賀市立中郷小学校

1 取り組みの概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
地域・学校協議会	3回
中学校区を単位とした協議会	0回
地域及び家庭への学校公開	6回(のべ)6日

(2) 地域人材の活用(のべ人数)

講師・ゲストティーチャー	45人
授業ボランティア(含:低ボラ)	7人
登下校支援ボランティア	56人
その他()	人

(3) 特色ある活動

テーマ「ふるさと教育」

中郷小学校は、敦賀市の中心部に近く、校庭の横には、春には満開の桜で、秋には色鮮やかな紅葉で彩られ、鮮やかに四季の風情を醸し出す岡山公園が広がっており、児童たちは、その起伏に富んだ公園内を業間マラソンで駆け回っている。

本校近隣の古田刈地区には伝統的な「古田刈かぶら」が栽培されている。古田茹かぶらは、古田茹集落に伝わる伝統野菜で、漬け物や煮物用として重宝されてたが、兼業化の進展や根こぶ病の発生などで、栽培は衰退したが、昭和60年に、復活を図ろうと研究グループが発足したが、良さが消費者から認められず、幻の伝統野菜になろうとしていた矢先の平成9年に、古田茹かぶら原種から採種した種子を、集落内の希望者30人に配付して栽培が復活された。



その伝統的な古田刈かぶらを、ここ数年、古田刈地区の区長さんをゲストティーチャーに招いて、4年生が栽培している。

9月下旬頃に5～6人のグループでプランターに種をまき、毎日水をやり、観察日記をつけたりしながら栽培している。1回目の間引きで葉っぱを、2回目の間引きで小さなかぶらを給食の時間に食べ、その後、12月中旬頃に収穫して、かぶらと葉っぱをみそ汁にして食べた。毎年、古田刈かぶらを初めて食べる児童がほとんどで、そのおいしさに驚いて、みんな笑顔いっぱい食べている。また、自分たちの地域で伝統的に作られてきた古田刈かぶらの存在を知ることにより、ふるさと意識が高まった。

敦賀市では、「一人一人の『夢』の実現をめざす教育」を敦賀スタンダードの推進プランとして、「未来を担う敦賀っ子の育成」を目指す中で、体験活動や地域交流を活性化することにより、ふるさと意識の高揚を図っている。地元の古田刈かぶらを栽培することにより、ふるさとに対して愛着と誇りを持つ子どもたちに育てて欲しいと願っている。



成果と課題

今年度は、特に道徳教育を中心に「豊かな人間性の育成」「ふるさと意識の高揚」を主体として取り組んできたが、その成果をさらに高めるために、地域人材の活用や地域教材の開発をさらに進めていきたい。また、来年度は、「一人一人の『夢』の実現を目指す教育」を目指し、家庭・地域と連携して「確かな学力の向上」と「社会や地域へ貢献する力の育成」の充実をはかり、地域ぐるみの教育力を向上させたい。

